

少子化について問う

国全体の課題である「少子化」、表現を変えれば「高齢化」について、本市の現状と将来予測を示し、関連する事業を絡めて一般質問を行いました。

■子ども数の現状と将来予測

令和元年6月以降の小学校区別における年少人口（0～14歳）の動向は、5校区でのみ増加でした。出生数は、令和元年1451人。令和5年では971人と想定されています。

■少子化対策としての2軸化構想の効果は？

若い世代を呼び込むことで本市全体の年齢構成のバランスを修正するという「2軸化構想」を掲げ、JR学研都市線沿道の開発を図る方針です。その効果の予測は？ 開発による子ども数の変化の実例から推測します。

過去の大規模開発での推移

かつて、和光小学校区内の黒原新町では光洋機械跡地に162戸の戸建て住宅と359戸のマンションが建設されました。それによる子ども数の変化は以下の通りです。

【黒原新町】	平成19年	令和元年	【和光小学校】	平成19年	令和元年
世帯数	339世帯	⇒ 905世帯	児童数	592人	⇒ 792人
住民数	798人	⇒ 2387人			
住民数は平成28年をピークに減少へ。					

【5才毎の和光小学校区の子どもの数】

0～4歳児	平成23年がピーク
5～9歳児	平成27年がピーク
10～14歳児	令和3年がピークと予想される

【第5中学校区】

この10年間、波はあるものの顕著な増加は見られない。もう一方の小学校区の児童が減少しているため。



子ども数は、開発から約10年で減少へと転じます。つまり、常時、開発の繰り返しが求められます。

■小中一貫校建設予定のJR沿線地域での開発は？

現在、建設が進められているのはJR寝屋川公園駅前の区画整理事業内のマンション60戸、イズミヤ跡地のマンション203戸です。

2軸化構想の名の下に、新たに開発を期待しているエリアもあります。ただし、行政が行った事業者へのヒアリングでは事業着手に厳しい回答でした。

仮に、地権者の同意を得た場合には、関係者で協議会を発足させた後、概ね9年で完成というスケジュール感となります。

今回の一般質問で、第4中学校区小中一貫校区域を取り上げたのは、小中一貫校の建設が予定されており、まさに基本設計が終了した段階で、実施設計が完成すれば後戻りできないことになるからです。第四中学校区の児童生徒数は現在約900人。それに対し、建設予定の学校規模は1200人から1500人までに対応できる規模とされています。

先に記したように、マイナスの現状を補い、その上にプラスに転じるだけの規模での開発が10年毎に繰り返すことが必要です。現実を直視した改善を求めました。

過去には分からなかったものが研究の積み重ねによって科学的根拠（エビデンス）を伴った成果が発表されています。特に、脳科学の分野はその傾向が顕著です。

犯罪の未然防止を目的に大学に研究を委託している事業は、そのような成果を本市に取り入れようとする試みであり、庁内においてその分野への理解は進みつつあります。

そこで、本市の定住性や人口動向に寄与し、結果、少子化対策とする視点での質問としました。人口の流出入の激しい住宅都市において、来訪者のファースト・インスピレーションは非常に重要です。私自身、他地域からの転入者であり、初めて寝屋川市を訪れた時のイメージは記憶に残っています。そこで、街のイメージを改善するための視点として、「女性の声」と「心理学・脳科学」を活用することを提案いたしました。

1. 女性の視点を取り入れる

出産の可能性の高い世代の女性が減少傾向にあることが本市の特徴です。少子化の原因にその点が大きく関係しています。

女性に気に入られなければ定住も転入にもつながりません。

そこで、女子高生をはじめ各世代の女性の声、それもできる限り匿名性の低い声を聞き取るシステムと場の創出を求めました。その上で、本市に足りないもの、今以上に対応すれば更によくなるもの、街の構造やイメージなどについて意見を収集・整理し、改善につなげることが必要であると提言いたしました。

余談ですが、「JK課」という部署を設置し、若者・女性に特化した対応をしている自治体もあります。

2. 花を活用した街づくり

脳内物質のドーパミンやセロトニン、オキシトシンなどの言葉を聞く機会が増えました。それらが人に与える好影響は科学的に証明されています。

その物質が街を移動するだけで分泌される仕組みを創ることにより、街のイメージと体感治安の改善につなげることが質問の目的です。

以前に、体感治安の改善のため「物質的な無秩序」に対する具体的な改善点を取り上げましたが、今回は「社会的無秩序」に対して切り込む手法です。

一つの題材として「花」を取り上げましたが、専門的な知見が必要です。そこで、専門家による街の点検とその改善方法の提案事業の導入を求めました。

少子化対策の課題(質問の背景)

①転入者の受け皿に、市街化調整区域をはじめ開発のしやすい地域に解決の糸口を求めていることから地域に偏りがあります。また、その取り組みに従事する職員の配置や税金の投入の仕方に課題が見られます。

②市外から担税力のある若い子育て世代を呼び込むことが重視され、現在の住民による世代の継承という視点が相対的に低くなっています。

世代継承は市の存続を高め、さらに、自治会の持続可能性や住民自治が保たれる重要度の高いものです。

③現在の行政が考える年齢構成のリバランスの原点は、社会保障制度などの行政制度の持続可能性、つまり財政的な視点です。この点は、今後の時代背景に合わせ制度変更があると想定されます。本市が考えるべきは、住民の暮らしを原点とした政策です。

④JR沿線の一部地域に若い世代が増えたとしても他の地域では減少傾向が続きます。地域偏在型の対策ではなく、全市的な街の新陳代謝が必要です。

少子化が課題となっているのは、今の社会制度を維持できることが前提にあります。

特に、喫緊の課題は「介護」です。2022年から団塊の世代が後期高齢者となっていきます。要介護者の割合が格段に大きくなることが想定されながら、その介護に当たる従事者の不足が言われています。本市では約1000人の介護従事者が不足になるとの推計です。「少子化」は「高齢化」の問題でもあります。

国土強靱化の「寝屋川市版」策定へ

【目的】 大規模自然災害等に備えた強靱な地域づくり

【対象とする自然災害】 地震・津波、風水害

【強靱化する上で、事前に備えるべき目標】

- ①直接死を最大限防ぐ。
- ②救助・救急、医療活動が迅速に行われ、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する。
- ③必要不可欠な行政機能の確保。
- ④情報通信機能・情報サービスの確保。
- ⑤地域社会・経済活動を機能不全に陥らせない。
- ⑥ライフライン、供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留め、早期に復旧させる。
- ⑦制御不能な複合災害・二次災害を発生させない。
- ⑧地域社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備。

【計画の構成】

1. 基本目標を設定の上、事前に備えるべき目標と対策推進の基本的な方針を設定
2. 8つの目標に対し、起きてはならない最悪の事態をそれぞれ抽出。
3. 最悪の事態ごとに、現在実施している施策の取り組み状況や課題を分析などの脆弱性の評価。
4. 具体的な取り組みを行うための施策の分野を決定。
限られた資源で強靱化を進めるため、施策の優先順位付けを行う。
5. 施策分野毎に、取り組む具体的な事業を列挙。

この計画策定の背景にあるのは、全国的な自然災害の多発化です。国で平成25年に法整備が行われ、国の基本計画、大阪府の地域計画がこれまでに策定されてきました。それを受けた本市計画となります。目的は十分理解できますが、市町村がこの計画を策定するか否かで国からの支援が変わってきます。国の補助金を獲得する条件にもなっており、そのような性格の計画が増えていることが、地方主権+に馴染まないのではないかとこの意見もあります。

ただ、財政的に脆弱な本市においては、国からの補助金を活用すべく計画を策定し、今後10年間の計画期間中に、優先順位の高いものから取り組んでいくこととなります。

この計画では「リスクコミュニケーション」が個別施策の一つとして登場しています。

今の感染症時にも言えることですが、リスクコミュニケーションの出来如何によって市中の混乱や不安を和らげる効果のある、非常に重要な取り組みです。計画では情報伝達ツールのハード対策に偏っており、ソフト対策が希薄です。この分野も心理学等の活用が重視される性質のものであり、真の目的への修正とその対策を提言してまいります。

シリーズ
ねやがわ史

「川内」から「河内」へ

701（大宝元）年の大宝律令によって中央集権的国家体制を運営する法が完成した。

地方組織は、広域行政である畿内と七道に区分され、さらに国・郡・里が置かれた。

704（大宝4）年4月、鑄造された国印を諸国に頒布することをもって国名表記の公定が施行された。

国名が二字に統一されているのは、国印鑄造に規制されたからである。

「河内」の国名は、北の河（淀川）と南の川（大和川）に挟まれた地域であることに由来する。

藤原京から出土した木簡（700年に記載）には「川内国」と書かれており、その他経典などにも散見されたものから、飛鳥時代に遡る表記であることが窺える。

「河内」の表記の最も古い確実な史料は709年の飛鳥、弘福寺の領田畠流記である。

よって、国印表記の公定が施行された時点で、それまで使われていた「川内」にかわり、「河内」と公定されたと推測される。